

観自在

弘長寺寺報
第十四号
平成十九年
一月

教化主事

退任いたしました

弘長寺住職 森田裕光

あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

島根県第二宗務所「教化主事」四年間の任期を大過なく全うすることができ、十二月十日無事退任いたしました。

これもひとえに、み仏様のご加護とお檀家皆様のご理解・ご協力をいただいたからこそ成し得たものと、深く感謝いたします。

再任を強力に要請されたのですが、この檀家数とピンチヒッターの効かない状況ではこれ以上無理と判断いたしました。

退任後、脅迫観念にも似た、休む間のないスケジュールの束縛から解かれた解放感を存分に味わうことができました。

これからは弘長寺の檀務に全身全霊をささげたいと思っております。

寺報第十三号にて開闢開山 實庵見貞大和尚についての記事を載せたところ、千葉前所長（私と共に昨年十二月退任、奥出雲町亀嵩・總光寺住職）から、その實庵和尚は總光寺の四世様で、大東・弘安寺の三世様であり、奥出雲・日光寺の御開山でもある、との衝撃的なお話を賜りました。

總光寺御開山は不見明見禪師様（後、大本山総持寺十九世に拝請される）で、三沢氏二代目城主の息子といわれており、總光寺様が三沢氏との縁が最も深い寺であることも判りました。

た。そして實庵和尚様が、弘長寺も含めて多数のお寺で布教教化をされた大変なお坊様であったということも解り、また實庵見貞大和尚の示寂年月日も判明いたしました。

永享三年（一四三〇年）七月八日。その日付を聞いて、痰氏碧信宗等寄進状の文書と内容がピタツと一致し、身震いを覚えました。

弘長寺僧宗順が三沢氏に近づいたのは成田氏の縁ばかりでなく、總光寺様との深いご縁があったからだという新たな事実が発見できたのです。

「三沢・亀嵩・布部史跡散策研修旅行」を企画研鑽しました。

阿弥陀様のお陰で、次々と歴史の謎が紐解かれていきます。



ハンドマイクを持つ三沢城跡保存会副会長、田部英年氏の説明を受ける保存会の皆さま方からご丁寧な接待を受けました

奥出雲町三沢城本丸跡にて記念撮影

平成18年 9月28日(木)

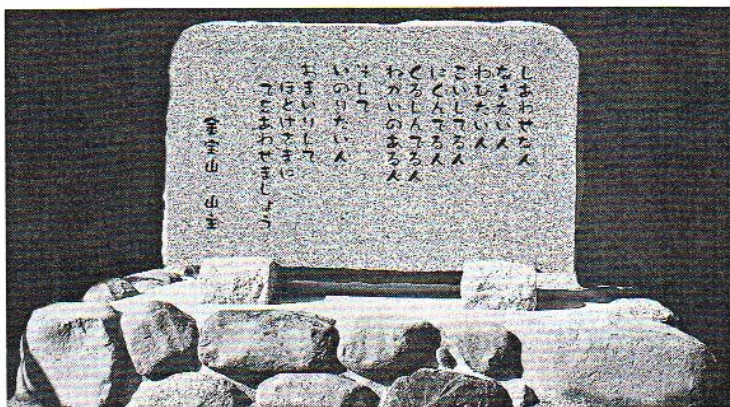
お知らせ

お願い

●山門横に石碑を建立
 しました。ご喜捨いただいたの
 は、弘長寺案内板の基
 をご喜捨されたばかり
 の地区、勝部石材店
 の岸添、勝部勝義殿
 で岸添、勝部勝義殿

以前中国管区教化セ
 ンター研修等で講師と
 してお招きしたエッセ
 イスト「浜 文子先生」
 一、弘長寺阿弥陀堂に
 住、喜捨したから、初
 に建立された山口市最
 初の寺様の文面を参考
 に、職の年来の夢が叶
 い、大きな立派な石
 碑を建立していただき、
 うれしく思いました。

どうぞかこの碑文にあ
 るように、気軽にお寺
 にお参りくださいまし
 す。ようお願いいたしま
 す。



しあわせな人
 なきたいい人
 わびたいい人
 こいする人
 にくしんでる人
 ねがいのある人
 そして
 いのりたい人
 おまわりして
 てをあげましょ
 う
 金宝山 山主

台 座

総高一m六十cm (台を含む)
 総幅二m八十cm (台を含む)

●御詠歌講に入りませんか

弘長寺梅花講は足かけ
 二十年を迎えました。
 よくぞ続けられたと感
 慨無量です。

しかし、考えてみれば
 発足の時の講員さんは当
 より二十才も加齢されて
 いるわけ、今でも現役
 とおいう方は数えるほど
 か、おいでになりません
 ました。講員数が減ってま
 いり

そこで、新たに梅花講
 員を募集したいと思いま
 す。皆で一緒に唱えしま
 す。のでどなたでも簡単
 できます。練習日は月一
 度、阿弥陀堂でおこな
 い賑やかで笑いの絶え
 い練習です。秋にはお
 盆施食会、秋にはお
 だけでなく、発表会が
 あります。県民会館の舞
 台に上るだけでも貴重な
 体験だと思います。昨年
 参加もできます。

は北海道、六名参加)
 にも参加できます。
 (昨年は六名参加)
 県民会館発表の前には
 特派の先生を招いて教
 研修会もおこなわれます
 (昨年は当山が会場)
 楽しみが多い講ですの
 で是非ご参加下さい。
 遠方の方は車で迎えに
 まいります。



第二教区特派講習会 (会場：弘長寺)

住職携帯番号

〇九〇(七二二〇)

六六三六

お知らせ

お願い

●ご法事や施食会、お寺参りの際に、輪絡子(輪袈裟)をお持ち下さる方は極力おかけ下さい。道元様の正法眼蔵の中には「袈裟功德の巻」があり、袈裟の有難さを説かれています。煩惱だらけの俗身を清浄な仏身に近づかせ、頂く大切な法具です。

●阿弥陀堂拝観の団体が増えてきました。外観を良くするため、飾り窓枠をもう三ヶ所増やすことにいたしました。平成十八年度護持会事業として、一月に白堀の修理をいたします。工事期間中はご迷惑をおかけしますが、ご協力下さい。

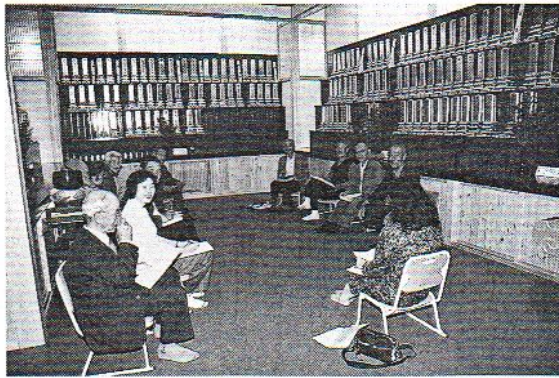
●九月以降、団体拝観は左記の通り、

・十月十九日
安来市古文書の会
十一名来山

・十一月二日
松江洞光寺様御一行
二十五名来山

・十一月二十二日
宍道町退職校長会
十二名来山

※本年二月十八日
布部安養寺様御一行
来山予定



安来市古文書の会

●記録集を六月末より今井書店で販売していますが、(一冊三千五百円)年末までに十冊完売しました。

学園通り店にも五冊置かせていただいております。

本山参拝のご案内

●大本山総持寺参拝と最乗寺・よしもと新喜劇伊豆長岡温泉の旅

平成十九年度島根県第二宗務所主催 本山研修会は、大本山総持寺様へお参りします。
ご希望の方は申込金一万円を添えて、四月一日迄にお寺へお申し込み下さい。

○期日
平成十九年五月二十一日(月)～二十三日(水)二泊三日

○会費
八万七千円(本山供養料・記念写真・観光費含む)

○締切
四月一日
申込金一万円を添えて菩提寺へ

○日程

5/23	5/22	5/21
羽田→出雲空港二十時	長岡温泉→沼津御用邸記念公園→ルミネ・ザ・よしもと	出雲空港八時五分→浅草寺→大本山総持寺三松閣(泊)
	根関所跡→伊豆長岡温泉(泊)	本山→最乗寺→大涌谷→箱根

弱いままに

信仰によって

強くなるのではない

弱いままに

助けられ

守られてゆく

その喜びの中に

生きる

それが

本当の信仰である

坂村真民

三沢・亀嵩・布部 史跡散策研修旅行

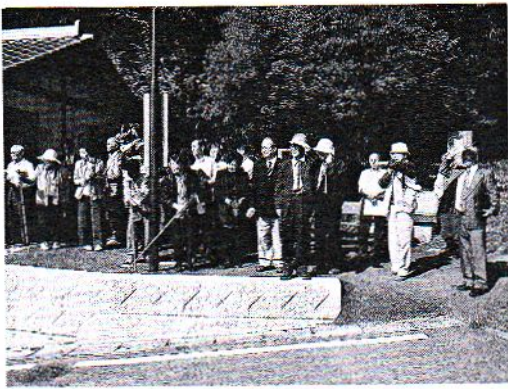
住職

平成十八年九月二十八日、護持会役員様を中心にメンバーを募り、講師として松本美和子先生をご招待申し上げ、研修旅行を致しました。お檀家様全部に案内が出来ず、申し訳なく思っております。

ご承知のように弘長寺開基・藤原満資は成田一族でございまして、この成田氏がやがて宍道氏と三沢氏の配下に別れてしまします。(南北朝時代、北朝方が三沢氏)

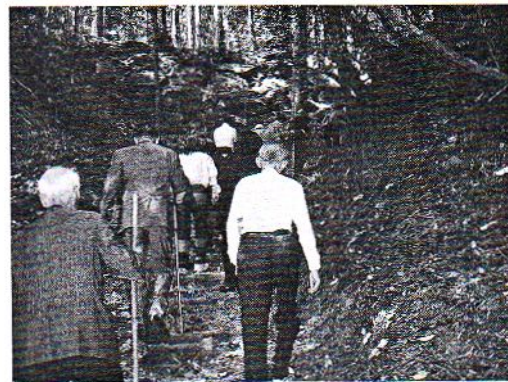
その三沢氏について代官職の重臣まで上りつめたのが成田和泉守秀久です。

その他文書には、成田与五郎・成田彦六右兵衛尉という成田の名があり、三沢地区には成田館跡が残っています。



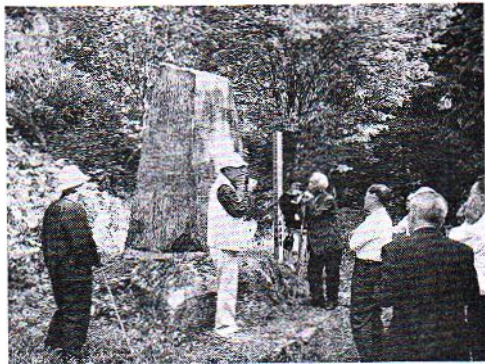
三沢城跡登り口

現在奥出雲町に三沢地区要害山三沢城跡保存会があり、最近三沢氏に関する本を出版されました。



急坂を登ると大手門の石組みが現れる

この本を執筆された保存会副会長、田部英年氏と会長以下十名、武田会長と案内対応した次第です。



安部氏の説明を受ける

この度はその田部氏に三沢史跡案内をお願いいたしました。三沢城跡へ案内され、全員が十五分程登ると頂上の本丸跡に到着。



頂上本丸跡、絶景です。ケーブルテレビが取材に来ていました。

島根半島の山並みから中国山脈まで四方が一目で見渡せる。



出雲風土記にも出てくる三沢池、この水を飲めば延命効果ありとのこと。

ノラマが展開、築城の条件に適っているかと納得しました。奥出雲町ケーブルテレビが取材に来ていました。



三沢公民館に案内をされ、お茶の接待を受ける。

その後、立派な三沢公民館に案内をされ、お茶の接待を受け、「戦国武将三沢氏物語」のビデオを視聴しました。



戦国武将三沢氏のビデオを視聴。



村上住職・小藤護持会長に案内していただく



布部 安養寺様

住職の実家は広瀬町布部安養寺ですが、開基は家島家です。家島家は、三沢城最後の城主三沢為虎の五男為政が播州(瀬戸内海)家島に住み、当時は三沢弥十郎と称し、晩年布部の隣、山佐村で農業を営み家島九郎右衛門為則を名乗っています。二代目治右衛門隆為が布部に移り、たたら製鉄で財をなし、



亀高 總光寺様

三代伝吉則豊の二男嘉文治が安養寺を建立したので。実病弱な嘉文治の平癒を祈願して伝吉が建立)十年程前に来待小学校で教頭をされた家島滋氏(現在は校長)は家島の末裔です。(住職とは同級生)



仏壇形式の開山堂・位牌堂にお詣りする

奥出雲の本山とも称せられ、寺の歴史は古く、開基は家島家。本堂は、寛文年間(1661-1716)に建立され、庫裏は、天明年間(1781-1812)に建立され、立派な伽藍に圧倒されました。現在松本先生の古文書の会門下生、(荒島屋のおかみさんは、)



開山堂・位牌堂です



立派な伽藍に圧倒されました



楽しい研修となりました



荒島屋にて懇親を深めました

